



カナダと日本を結ぶコミュニケーションプレス

メイプル

東北

Vol.12

**ナイアガラの滝
スケールの大きさに感動、
迫力満点、世界最大の大瀑布。**

ナイアガラはカナダ滝とアメリカ滝の二つに分かれますが、大きいのはカナダ滝。高さ64m、幅675mの馬蹄形で、別名Hoeseshoe Falls。中間には花嫁のベール(Bridal Veil)という小さな滝もあります。昼間は大迫力の光景を楽しめますが、夜間にはライトアップされ、神秘的な美しい表情も見せてくれます。



NEWS

● 明間会長がカナダ名誉領事に就任 ●

カナダと東北のさらなる交流を目差して

12月9日、明間会長がカナダ名誉領事に就任し、同日仙台市内のホテルで行われた就任式で、駐日カナダ大使館のジョン・テナント公使から認証状が授与されました。

明間会長は、昭和42年に東北電力とカナダ・デニソン社とのウラン精鉱の購入契約に携わるなど、カナダとの経済交流の先導役を担ってきました。平成7年2月には、故玉川会長の後を引き継いでカナダ名誉通商代表に就任。同年7月からは東北日本カナダ協会会長として、カナダと東北の友好促進にも取り組んできました。今回の名誉領事就任は、こうした業績が、カナダ政府から評価されたものです。

また、2月24日には、ドナルド・キャンベル駐日カナダ大使夫妻をはじめ、約130名のお客さまを迎えて、名誉領事就任披露レセプションが開催されました。

レセプションの冒頭、明間会長が「名誉領事を仰せつかったことは、大変光栄であるとともに、これからもなお一層の友好関係の発展に向けて力を尽したい」と抱負を語ったのに対し、キャンベル大使は「明間会長のリーダーシップにより、東北地方とカナダの関係が著しく強化された。名誉領事就任を機に、さらに友好が深まることを期待する」とあいさつ。レセプションは盛会のうちに終了しました。

在仙台カナダ名誉領事(管轄：東北7県)となった明間会長は、カナダ大使館と協力し、カナダとの友好・通商



ジョン・テナント公使と握手を交す明間会長。



キャンベル大使夫妻をお迎えした披露レセプション。

関係の促進に加え、カナダ人に対する領事業務の補助を行っていくことになります。

カナダ名誉領事館は、電力ビル4Fに置かれ、近くオープンすることにしています。

(開館時間：(火)、(木)13:30~17:00)

【クリスマスパーティー開催】

—天使の歌声がひびく—

12月9日、カナダ大使館から、テナント公使、金子商務官をお招きして、恒例のクリスマスパーティーが、仙台市内のホテルで開催されました。当日は、明間会長と、100名を越える会員が出席して、盛大に行われました。

今年も、仙台で活躍するハワイアンバンド「モレナエコース」が、スイング的なスティールギターと歯切れのいいリズムで、心地よいポップス室内楽を聴かせてくれ、外の寒さで凍てついたみんなのからだを心を暖めてくれました。

「カナダツアー」のプレゼンテーションでは、臨場感あふれるスライドの数々と、軽妙なトークに、会場は、笑ったり、驚いたり、ため息がでたり。ひとときの旅行気分には浸っていました。

お待ちかねのビンゴゲームでは、ダブル、トリプルビンゴが続出し、みんなワイワイガヤガヤ。じゃんけんをしないで、子供にプレゼントを譲る参加者もいて、ほのほのした雰囲気の中で、当選者は素敵なプレゼントの数々を手に入れました。

フィナーレでは、モレナエコースと一緒に、こどもたちがクリスマスソングを歌ってくれました。キャンドルの淡い光の向こうにゆれる、天使の歌声を胸に、参加者全員、満足して家路につきました。



大いに盛り上がったパーティー会場。

カナダツアー特集

協会設立5周年を記念した、初めてのカナダツアー。10月5日から12日の日程で、黒田副会長ほか36名がトロント、バンフ、バンクーバーなど各地を訪問しました。大自然の魅力を味わい、人々と語り合った8日間の旅は、生涯の思い出として参加者それぞれの心にはっきりと刻まれました。

漠然と憧れていたカナダへの旅行、しかも娘と二人の旅行になるなんて考えてもみなかったのですが、偶然が重なって思いがけなく実現しました。

好天に恵まれて、行く先々で見た景色の絵のような美しさ！その一つ一つが脳に焼き付いております。次回は夫と、とも思いますが“雨が飛沫か分からないナイアガラの滝”とか“雲の中のロッキー山脈”……と考えると今回の旅が良かっただけに迷ってしまいます。

また、旅行中に会ったカナダの方々、交流会でお話した方々、海外からの旅行者の方々等、いろいろな文化を背負った人々との触れ合いも大変刺激になりました。

そして、バンフで皆様に祝福して頂きました誕生日。一生忘れられないものになりました。誕生日の度に、あの時のケーキと1本のキャンドルを思い出すことでしょう。

(佐藤恵美子)



ツアー中にカナダで迎えた誕生日は、生涯忘れることのできない思い出に。

今回の旅行は終始晴天に恵まれ、とても良いものになったと思います。私は海外旅行は初めてだったので少し不安もありましたが、帰る頃にはそんなことはすっかり忘れていて、むしろずっとカナダにいたいと思ったくらいです。

ナイアガラの滝やロッキー山脈、コロンビア大氷原など、今まで写真や地図上でしか見る事のなかった場所を自分の目で、しかも最高のコンディションの下で見られたことは本当に幸運だったと思います。とても良い刺激になりました。

しかし、何より私にとって印象的だったのは、カナダの人々の公共マナーや自然保護に対する徹底ぶりです。行く先々にある禁煙等の決まり、きちんと整備された町並み、また国立公園内でのあくまでも野生の植物や動物を優先するルールなどには本当に感服しました。

もちろん、観光旅行ということで、良い所ばかりをつまみ食いしたようなものですから一概には言えないのかもしれませんが、そのことを差し引いても問題ない程、私はカナダが好きになりました。

(佐藤明子)



参加者から寄せられた手紙。

寄稿コーナー

●バンクーバーのホテルより見る街の灯の
きらめく果ては天に連なる

●森林の限界線越え突き出たる
山皆氷河に裂かれていたり

(詩 朗)

※団長としてツアーに参加した黒田副会長がカナダを詩った作品です。

トロント宮城県人会と交流

カナダツアー参加者一同は、10月7日、トロントで、現地の宮城県人会や関係各団体との交流パーティーに出席しました。

黒田団長の挨拶に引き続き、協会から藤間勘めさんが日本舞踊を披露。会場を華やかな雰囲気包みました。その後、鏡開き、地元の和太鼓グループ「躍童」による演奏、ピンの交換などが行われました。

トロントの皆さんの暖かさに触れ、カナダツアーが一層思い出深いものとなりました。



交流パーティーに出席した一行。

カナダツアー特集 つづき

8日間、家を空けられるかあれこれ迷いましたが、一生に一度のチャンスと思い参加させていただきました。私にとっては、初めての海外旅行です。

何度も外国へ行っている娘にあれこれアドバイスを受け、おみやげまでしっかり申しつかって出発です。成田空港での混雑ぶりは、テレビのニュースで見るのとまったく同じ。いよいよ外国へ行くんだと実感しました。

お天気に恵まれ飛行機の乗り心地も快適です。機内食が思ったよりおいしいのとスチュワーデスの働きぶりには感動しました。

大変な重労働なんですね。

カナダに行って驚いたのは広大な土地、山、川、湖。どれをとっても何というスケールの大きさでしょう。景色も美しくため息が出るばかりです。

ナイアガラの滝の迫力ある水の音としぶき、滝に吸いこまれそうになるまで、接近していく「霧の乙女号」でのクルージング。半円形を描く七色の虹の素晴らしさ。言葉では言い表せないほどです。

もうひとつ心に残っているのは、コロンビア大氷原へ行った時です。大人の背丈ほどもある大きなゴム製タイヤの雪上バスに乗り、見渡す限りの大氷原を踏みしめました。

広大な大自然を感じさせてくれたナイアガラ、バンフ、ロッキーマウンテン。

そして、エネルギー感あふれる大都市トロントとバンクーバー。カナダの魅力を思う存分味わうことができました。

(馬場文雄・馬場良子)



まるで一枚の絵ハガキと出会ったかのような感動を数多く刻んでくれた今回のカナダツアー。

広大な大地と青い空
今をさかりの美しい紅葉
ナイアガラの滝にかかる虹
光輝く山々

太古の森林と大自然
氷原をゆく雪上車
群れるエルク……等々

数えあげたらきりがありません
はじめてのカナダ旅行でしたが、
お天気にも恵まれ、すごい感動の日々でした。

(庄司陽子)



いよいよナイアガラの滝を見学。



七色の虹が架かった滝は、まさに絶景。



雄大なカナダの自然。

◎Letters to Maple(メイプルへのお便り)欄にお便り募集

メイプルにおたよりをお寄せ下さい。
カナダに関する事ならなんでも結構
です。おハガキ、封書またはFAXで、
当協会宛にお送り下さい。

1997年4月発行

発行人／東北日本カナダ協会 The Tohoku Canada-Japan Society
〒980 仙台市青葉区一番町三丁目7-1

東北電力㈱ 地域交流部内 TEL. 022-225-3052(直)
FAX. 022-227-8390